

韓国環境部プレスリリース 2019年10月26日付

以下、機械翻訳などによる仮訳

**鉄原郡遠南面地域の死亡野生いのししからアフリカ豚コレラウイルス検出  
(野生いのしし 15 例目)**

<http://www.me.go.kr/home/web/board/read.do?boardMasterId=1&boardId=1068575&menuId=286>

**【本文】**

環境部所属の国立環境科学院(院長チャン・ユンソク)は江原道鉄原郡遠南面竹垈里の民統線内のイノシシへい死体からアフリカ豚コレラウイルスを検出したと10月26日明らかにした。

鉄原軍部隊は10月16日、イノシシへい死体を発見したが、未確認の地雷地帯に位置していたため安全を確保した後、10月24日午後2時50分頃申告した。同日、科学院の現場対応班が出動し試料を採取した。鉄原郡と軍部隊は野生イノシシアフリカ豚コレラ標準マニュアルにより死体を消毒した後、埋却措置した。

科学院は10月25日午後10時頃、アフリカ豚コレラ陽性を確認した。これで鉄原郡遠南面だけで6例目のアフリカ豚コレラウイルスが確認された。現在まで確認された野生イノシシアフリカ豚コレラは15件に増えた。

チョン・ウォンファ国立環境科学院・生物安全研究チーム長は「今回のへい死体は以前に設置された1次フェンスの内側で発見された」として「該当軍部隊において非武装地帯と民統線周辺に大々的な野生イノシシへい死体捜索を行っている」と話した。

(以上)